



急な斜面での下刈り



作業の前のミーティング

主婦中心の森林ボランティア 地道に活動する「そらあけの会」

「うつそうとした暗い森林が、枝を落として明るくすると、光が地面まで届いて空がよく見えるようになります。光が入ると地表の植物が豊かに繁茂して、小動物が活動するようになります。倒れた木を取り除き、明るく美しい森林を作ります。」

「そらあけの会」の主な作業は、陽子さんが友人に呼びかけ、平成九年八月に女性四人でスタートしたのが「そらあけの会」です。

四人とも都会育ちで、山仕事の経験がなく最初は戸惑いがありました。が、あきる野市で林業を営む池谷キワ子さんから山仕事の手ほどきを受け、下草刈りや枝落としの作業を手伝うようになりました。

そらあけの会の目的は、「健やかな人間の生活に欠かせない水・空気・土壌の源である森の大切さと暮らしを学び、森を守っていく」ことです。

主婦が中心のため、作業は毎月第一・第三曜日です。最近は定年退職した男性も加わったため、作業道の補修や立木の伐採、運び出しなどの力仕事も出来るようになりました。

「そらあけの会」の主な作業は、春は竹林の間引き、杉林に侵入した竹の除去、山の歩道整備。夏は下草刈り、沢の整備、秋から冬にかけては枝落とし、雑木林の育成と季節に合わせたさまざまな作業を行います。雑木林では、山アジサイやツバキなどの花木類や野鳥の餌になる実のなる木を植えて、人と野鳥がいざなえる「ひろみの森」の整備に取り組んでいます。「ひろみの森」は、「誰もが楽しめる森林づくり」の夢を持つて森林ボランティア活動に取り組んでいた木彫家の藤井ひろみさんが天逝されたあと、遺族の方による「彼女の夢を実現してください」との要望を受け始めたものです。

作業は安全第一

作業前には、池谷さんから「安全

作業」についての指導を受けます。そして、腰にナタ、ノコギリをつけ、背丈よりも伸びた雑草や灌木を取り除いていきます。チェンソーや刈り払い機などの機械は使いません。

メンバーは少しづつ増え続け、現在は女性一八名、男性一五名の計三三名になりました。

指導林家の方から、森林・林業に関する技術的な手ほどきを受けることもあります。また、珍しい講習会としては、枝落としを安全に行うために、日本山岳会高尾の森づくりの会員で林野庁OBの指導員からロープを使った安全な木登り方

法を教えていただいたこともあります。

われ、続いて国民森林会議の只木会長（名古屋大学名誉教授）、藤森隆郎博士（日本森林技術協会技術指導役）から、間伐の意義や森林生態系を保全することの重要性などについて講話を行わされました。

引き続き午後からは、只木会長より「あえて人工林の肩を持つ」と題した講話が行われ、「スギ、ヒノキの人工林は批判されがちだが、水源かん養や環境保全、二酸化炭素の吸収など私たちの生活に役立っている」との説明がありました。そして、池谷さんから「ボランティアは山のことを相談できる心強い相手で、ともに木の成長の喜びを分かちあえる仲間です」と、岡根さんから「女性が多いので細く長く続けていきます。技術の向上も目指していますが、山の恵みもたっぷりいただき、生きる力を付けていきたい」とそれぞれの思いが語られた後、参加者によるフリートーリングに入り、「森林の持つ色々な機能を高度に發揮するためには、間伐など森林の手入れを怠ってはいけない」「森林の仕事は楽しい」「森林を守り育てる仕事は社会貢献でありやり甲斐がある」などの意見が出されました。



国民森林会議との合同ミーティング



そらあけの会メンバー

山の恵みを楽しむ

主婦中心に組織したボランティア団体ということもあって、汗をかく仕事をだけでなく、山にある普段は気がつかないような小物を活用することもあります。クズやアケビの蔓などを使った花差しなどの製作や草木染め、クズ、カラムシの手織などのほか、フキノトウ、ノラボウ、ノビル、ミヨウガ、タケノコ、三ツ葉などの山菜を使つた料理の研究も行っています。また、沢では清流を活用してワサビを栽培しています。山には豊富な食材や手芸の材料があり、これら山の幸を活用して生活に潤いを持たせるのも、女性ならではの細やかな心づかいといえます。

そらあけの会

代表：岡根 陽子氏
平成9年8月4日 設立

<作業内容>

下草刈り、枝打ち、広葉樹林の造成、竹林の整理と竹炭焼きなど。

会員数33名(2009年現在)
年齢は50歳～60歳代。

住所：東京都羽村市栄町1-11-49
電話／FAX：042-579-1382